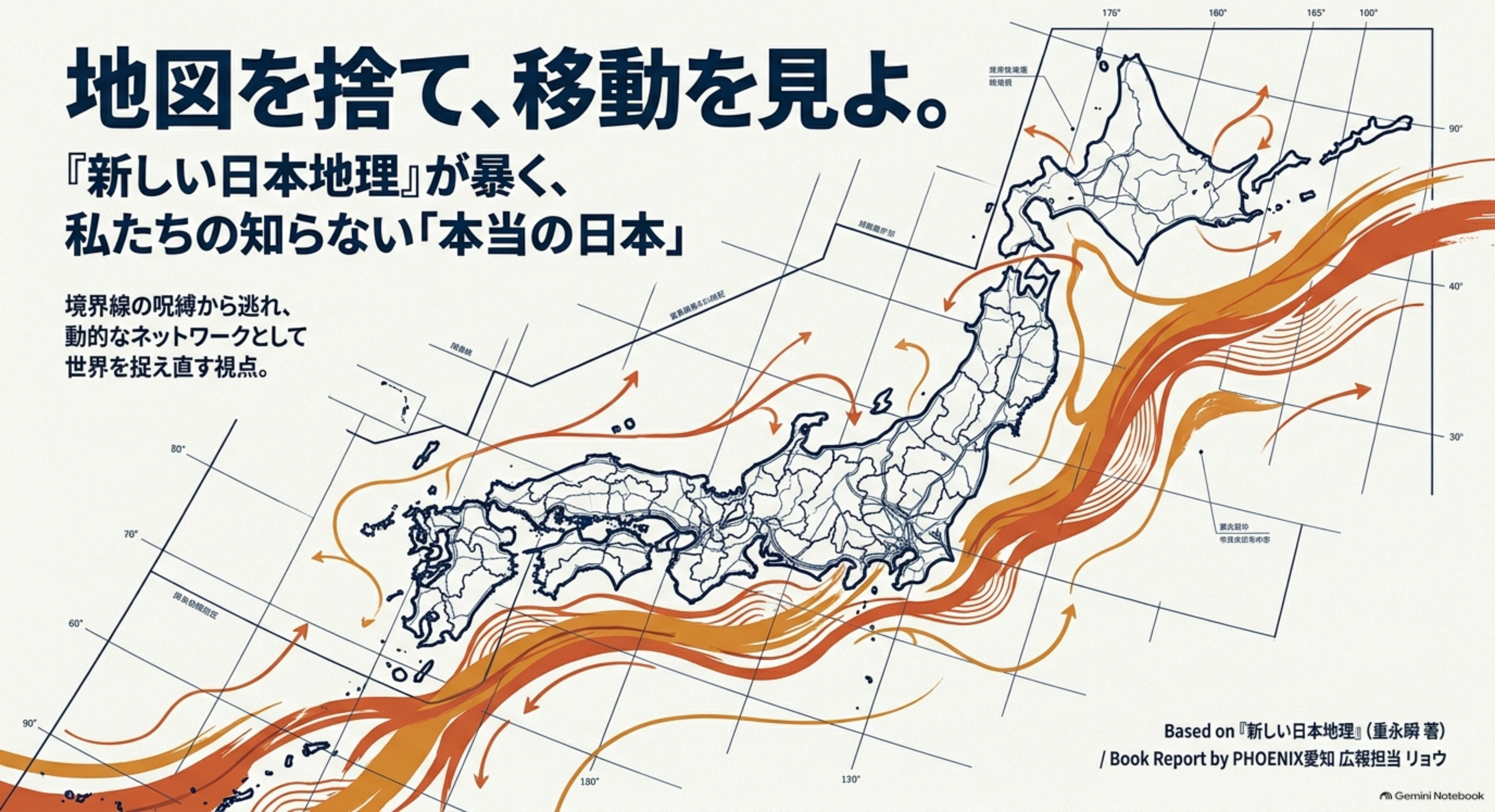


地図を捨て、移動を見よ。

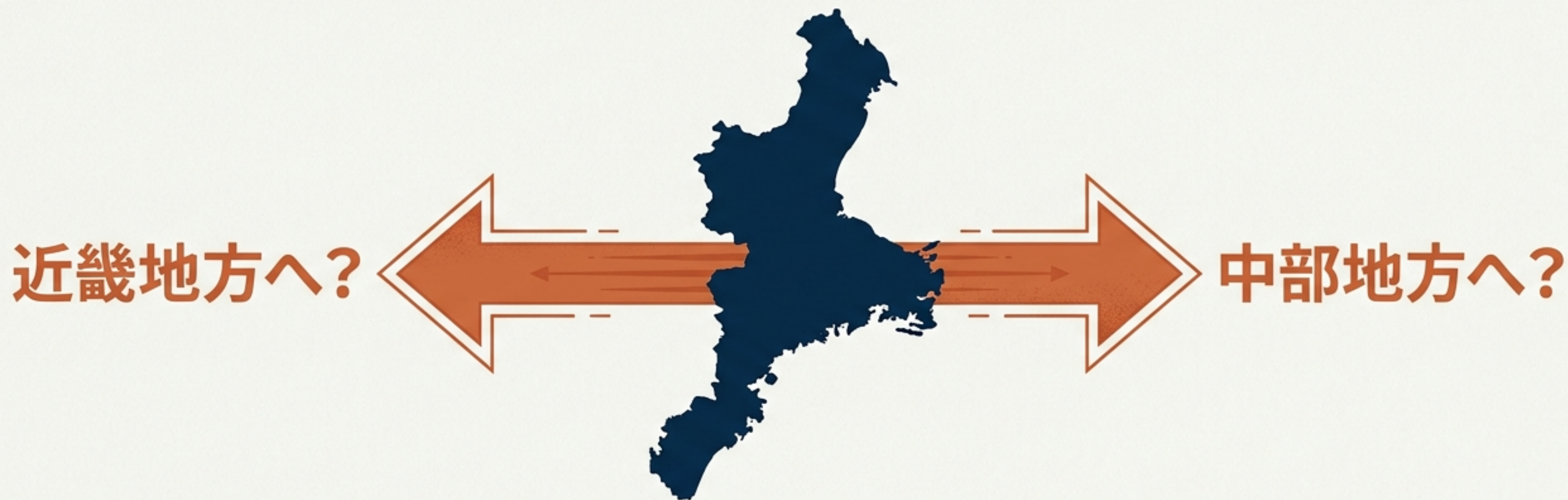
『新しい日本地理』が暴く、
私たちの知らない「本当の日本」

境界線の呪縛から逃れ、
動的なネットワークとして
世界を捉え直す視点。



Based on 『新しい日本地理』 (重永瞬 著)
/ Book Report by PHOENIX愛知 広報担当 リョウ

突然ですが、質問です。三重県は「何地方」ですか？



一瞬迷ったあなた。実は、私たちが学校で暗記した「日本の地方区分」には、
多くの矛盾と思い込みが隠されています。

都道府県の境界線は、単なる行政の「**便宜上の線**」に過ぎないのです。

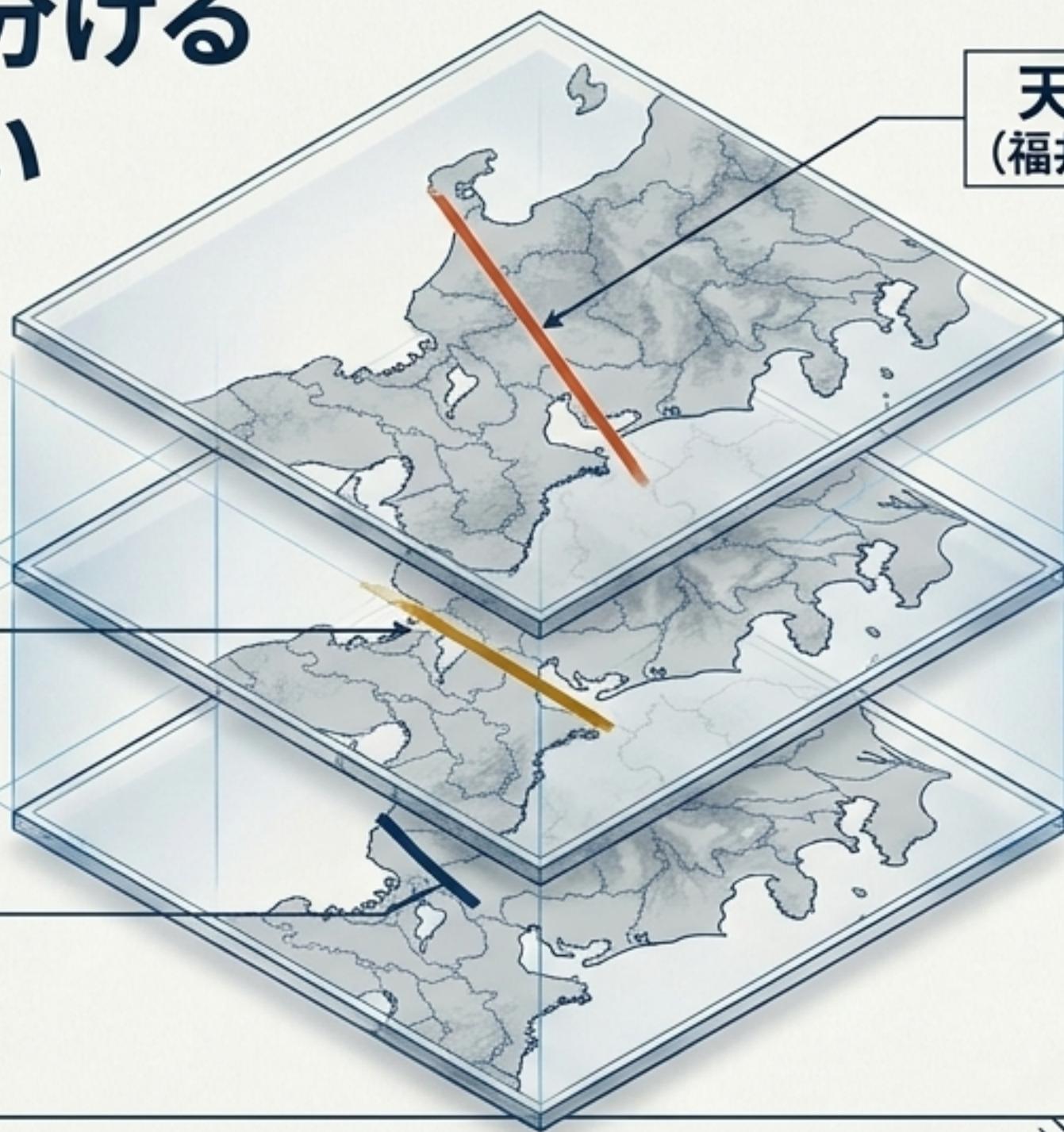
「東日本」と「西日本」を分ける 絶対的な線は存在しない

見る「レンズ」を変えれば、
境界線は全く違う場所に引かれます。

歴史・文化の境界
(東海道・箱根の関所)

通信(NTT)の境界
(新潟県/富山県境・親不知付近)

天気予報の境界
(福井県～三重県ライン)

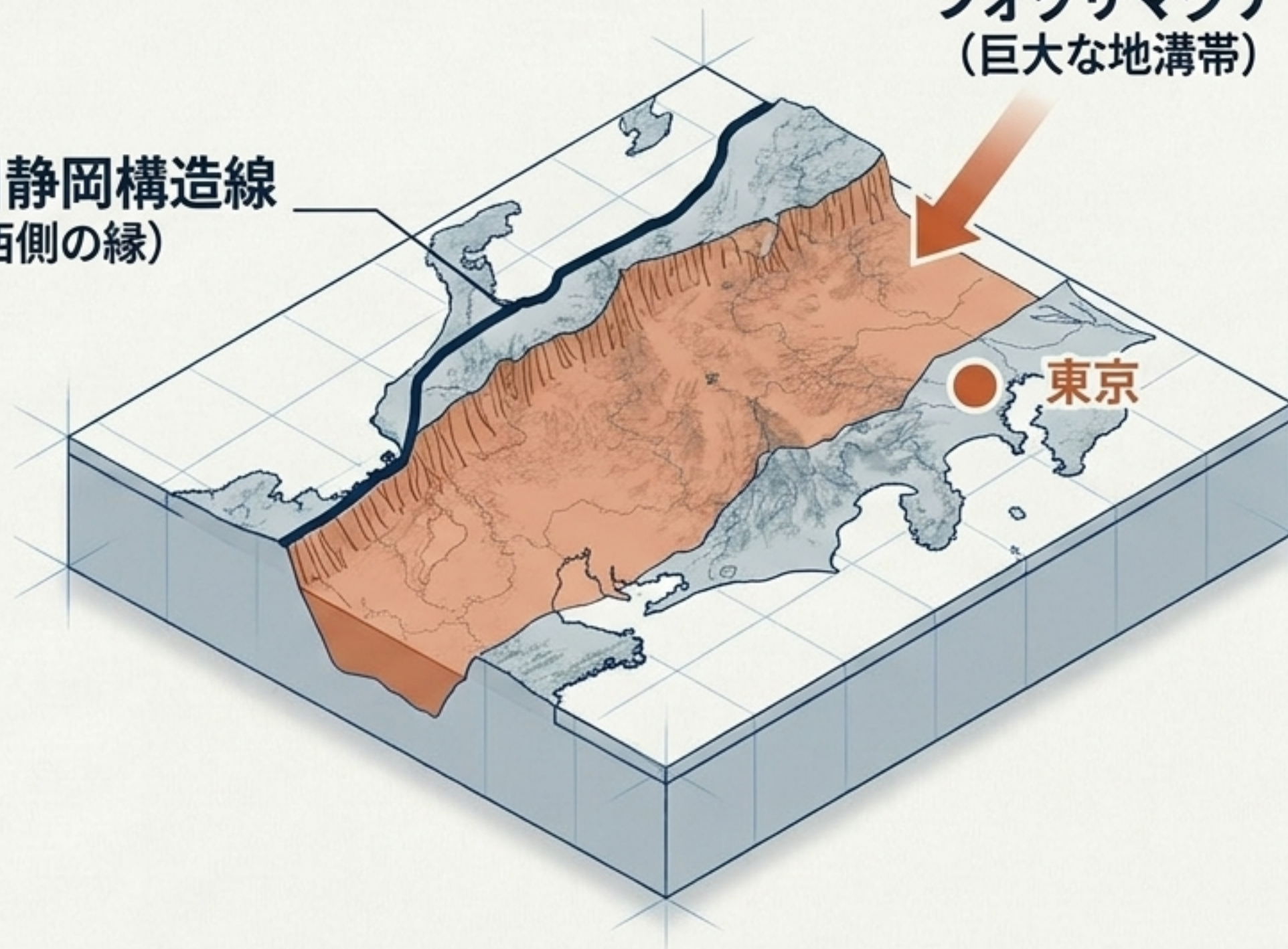


※方言などの「文化の境界」は、険しい山脈が人々の移動を阻んだ結果として
事後的に生まれたものに過ぎません(例:糸魚川～浜名湖線)。

誤解されがちな 「フォッサマグナ」の正体

フォッサマグナ
(巨大な地溝帯)

糸魚川静岡構造線
(西側の縁)



×

誤解:「フォッサマグナが
日本の東西を分ける
1本の線である」

○

真実:
「フォッサマグナは広大な
『面(エリア)』である」

面を境界とするなら、
東京は東西の「中間地帯」に
すっぽり収まってしまいます。

私たちを縛る「地方ブロック幻想」



古くからの自然なまとまり
ではない（明治の廃藩置県以
降の試行錯誤）。

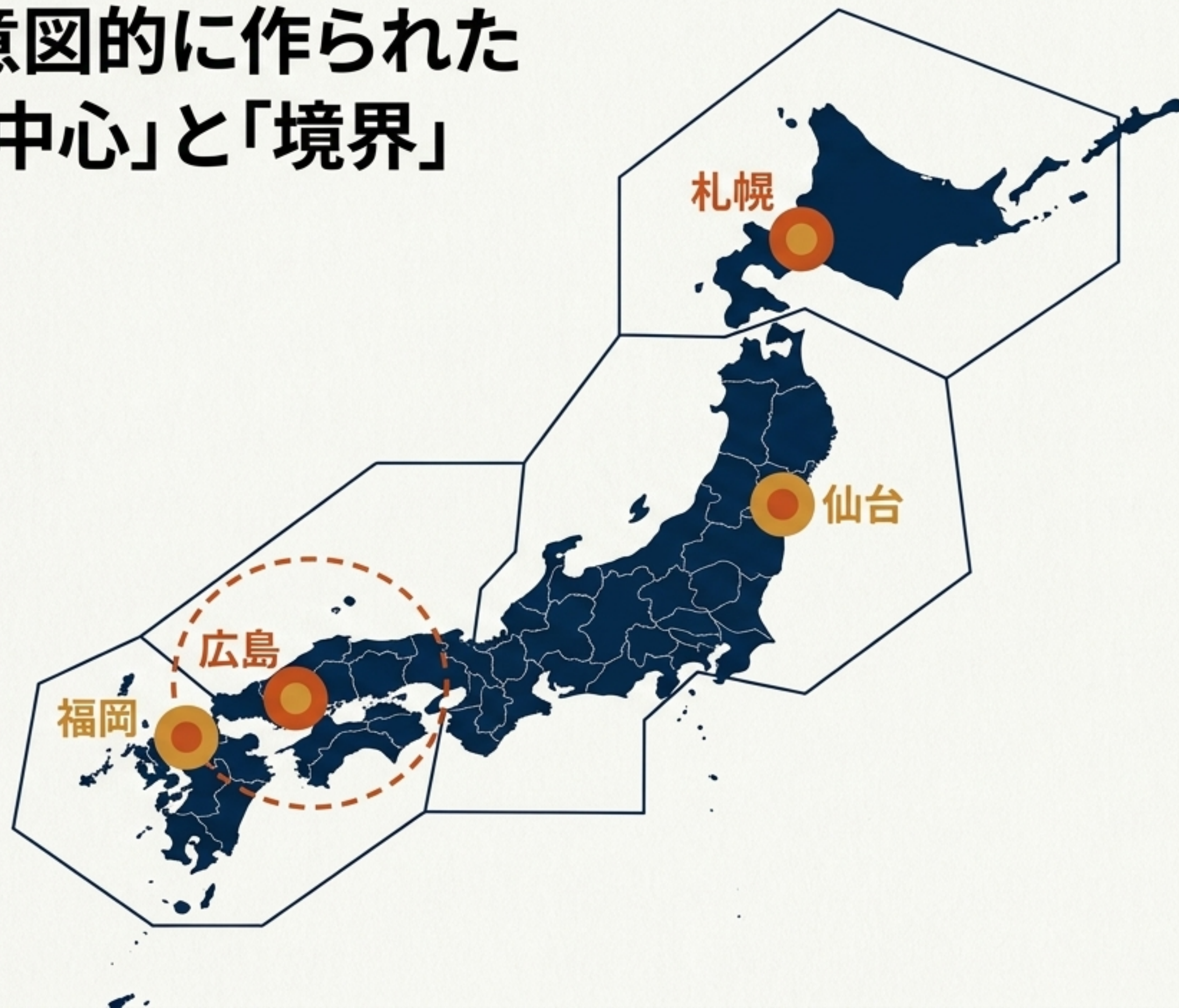


1903年（明治36年）の小学
学校国定教科書で普及した、
意外と歴史の浅い区分。



行政の効率化のために作られ
た「トップダウンの境界
線」。

意図的に作られた 「中心」と「境界」



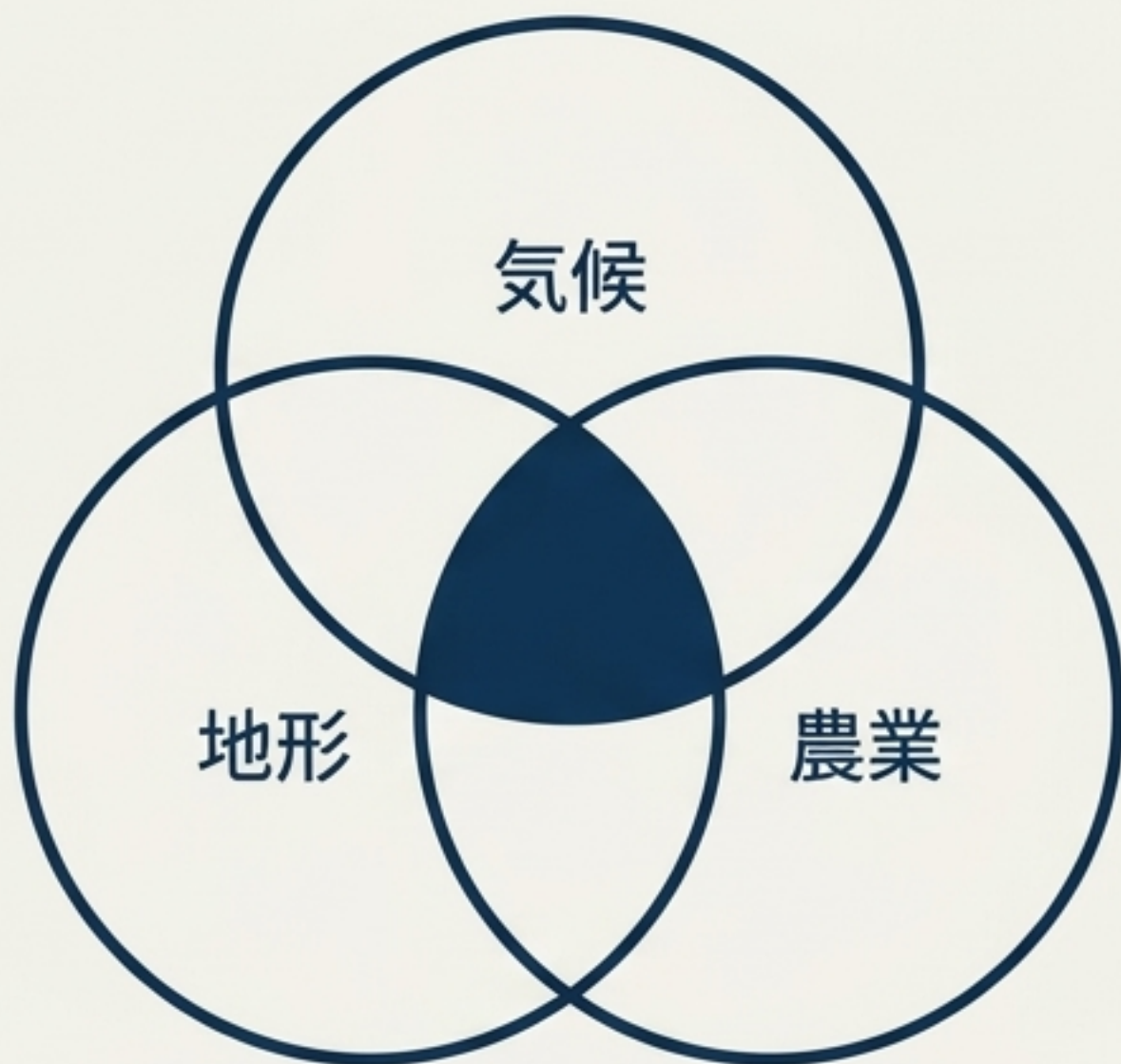
Keyword Box

札仙広福（さっせんひろふく）：
各地方ブロックを統括するた
めに国が育成した「地方中枢都
市（支店経済都市）」。

Reality Check

戦時中～高度経済成長期にかけ、
排他的なブロックを作るために
設定されました。しかし現実
は、例えば中国・四国地方にお
いて広島の影響力は全域には
及んでおらず、「まとまり」は
非常に弱い実態です。

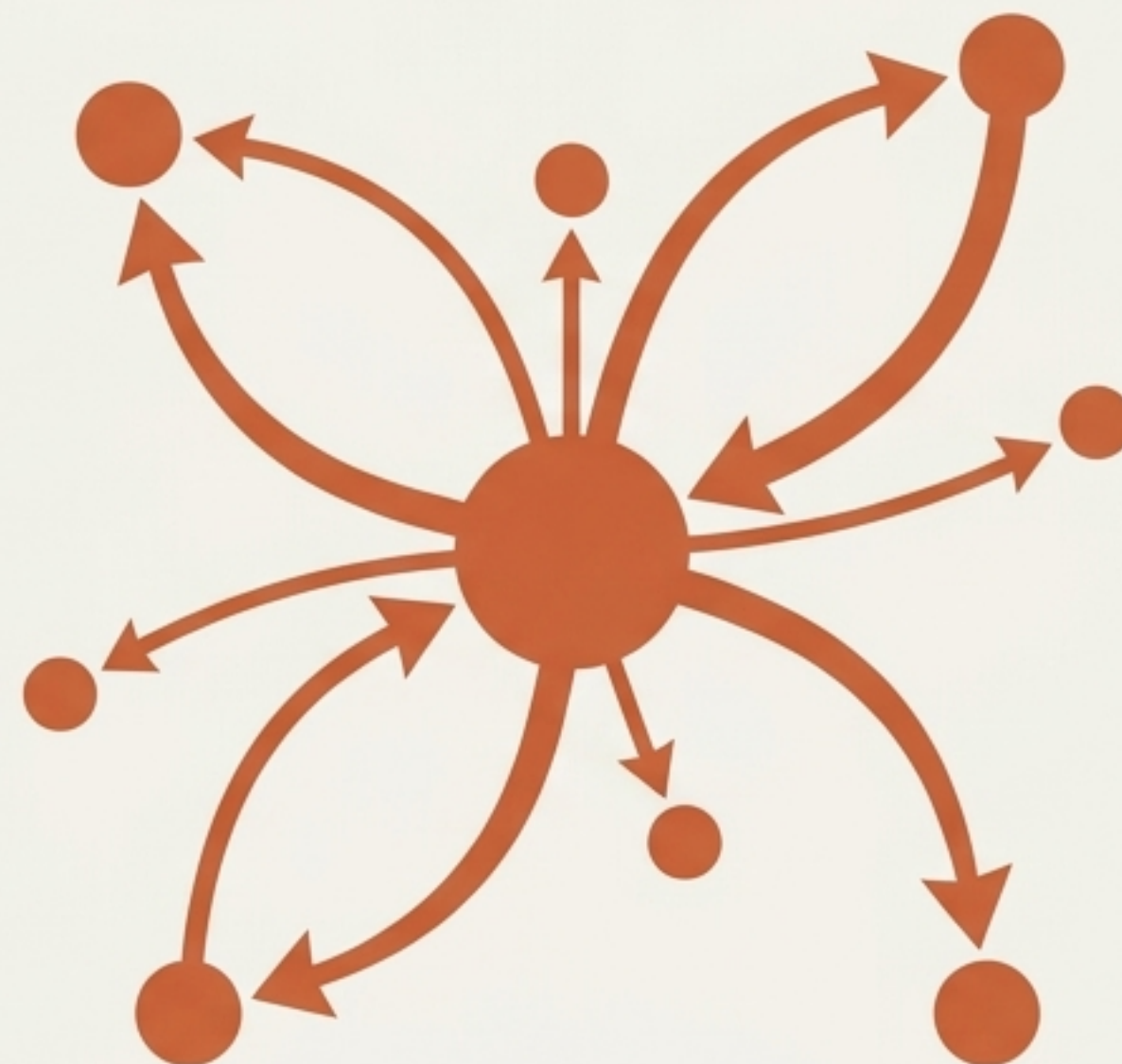
地理学のコア概念：「似ている」か「繋がっている」か



等質地域 (Homogeneous Region)

定義：「似た性質」を持っていることでまとまる地域。

例：豪雪地帯、稲作地帯、方言など。



結節地域 (Nodal Region)

定義：人、モノ、お金、情報の「移動（流れ）」によって結びつく地域。

例：都市の通勤圏、企業の経済圏。

既存の枠を外すと見えてくる 「南海日本」

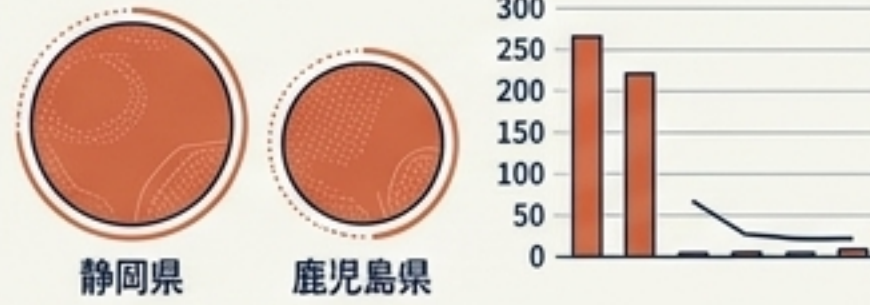
「陸の境界線」を捨て、
「海のハイウェイ」に着目する。



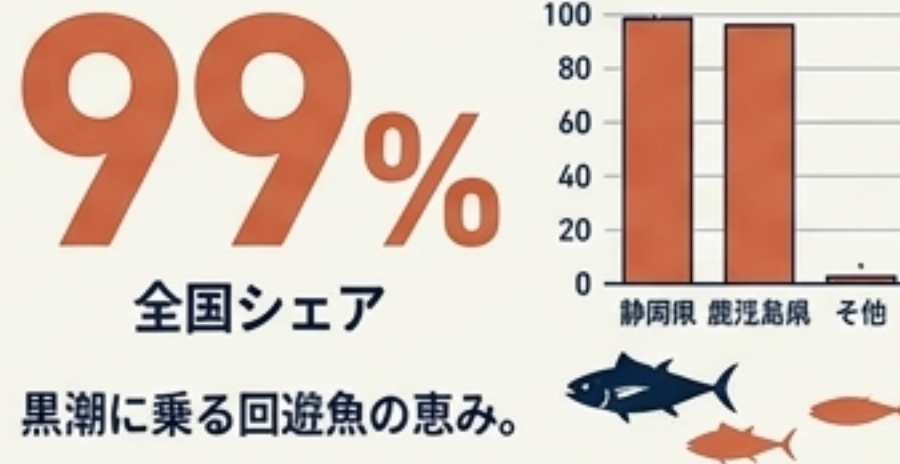
鹿児島から静岡、千葉に至る太平洋側。
年平均気温15度以上の温暖な気候と、台風の通り
道という共通点を持つ、ダイナミックな生活圏。

海の道が運んだ、 文化と経済の シンクロニシティ

お茶の生産：静岡県（1位）と鹿児島県（2位）



カツオ・マグロ文化：「かつお節」生産は
静岡と鹿児島だけで全国の99%を占有。

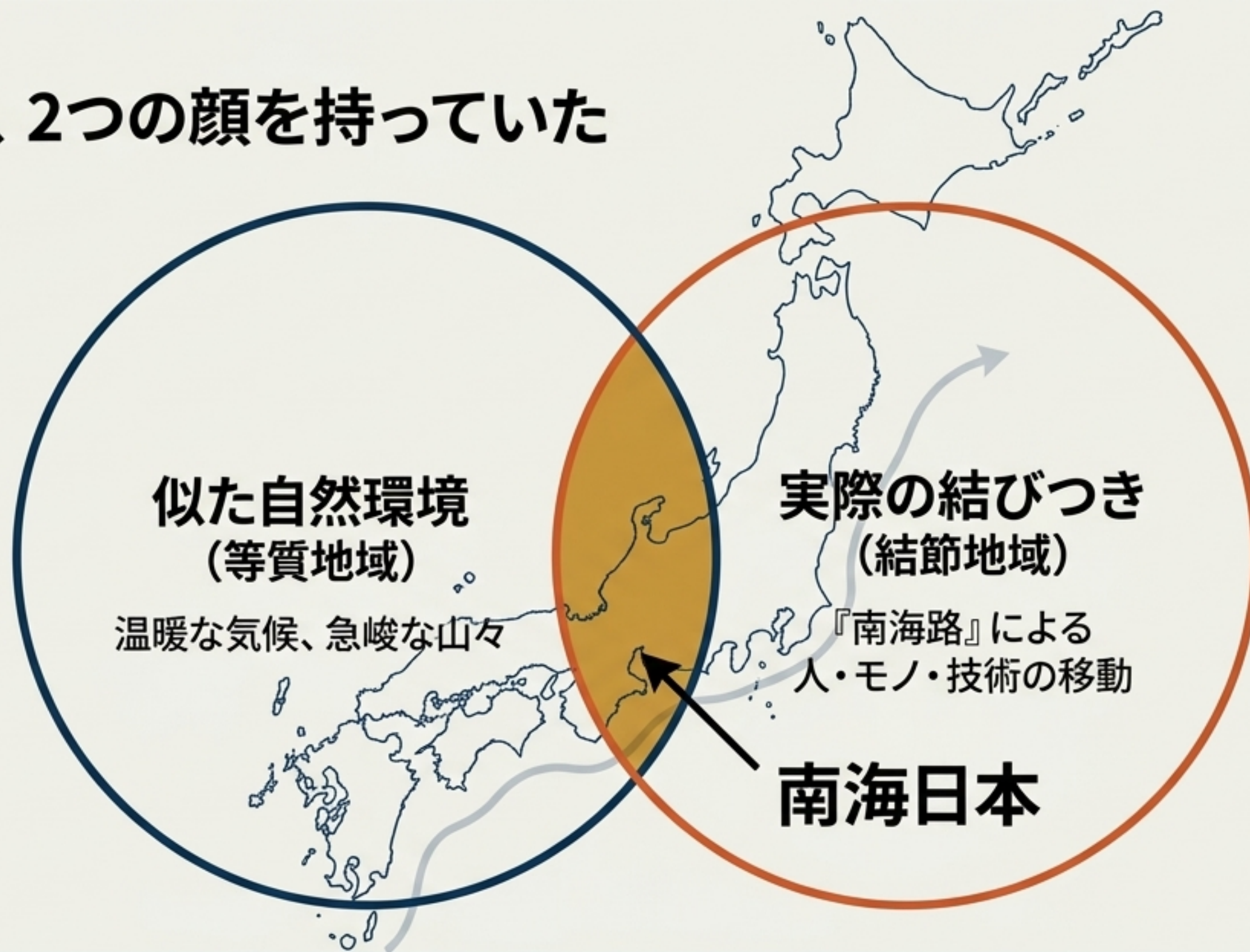


漁業の伝播：千葉県（九十九里浜）の
イワシ漁は、海路「南海路」を利用した
紀州（和歌山）の漁師がルーツ。



漁業が移と出て何が移くなる理通に、千
葉県の漁業路にして漁業が運され、文化な
文化転移をリンク。

南海日本は、2つの顔を持っていた



陸路を中心に考える現代人にとって、海は「隔てるもの」です。
しかし視点を歴史や海流に変えた瞬間、海は「繋ぐもの」へと鮮やかに反転します。

交通主役の交代がもたらした「分断と集中」



江戸時代：船

海沿いの都市が強く結びつき、南海日本が繁栄。海がハイウェイだった時代。



近代以降：鉄道

内陸部や中央への接続が優先。海のネットワークは分断され、地方ブロックが固定化。

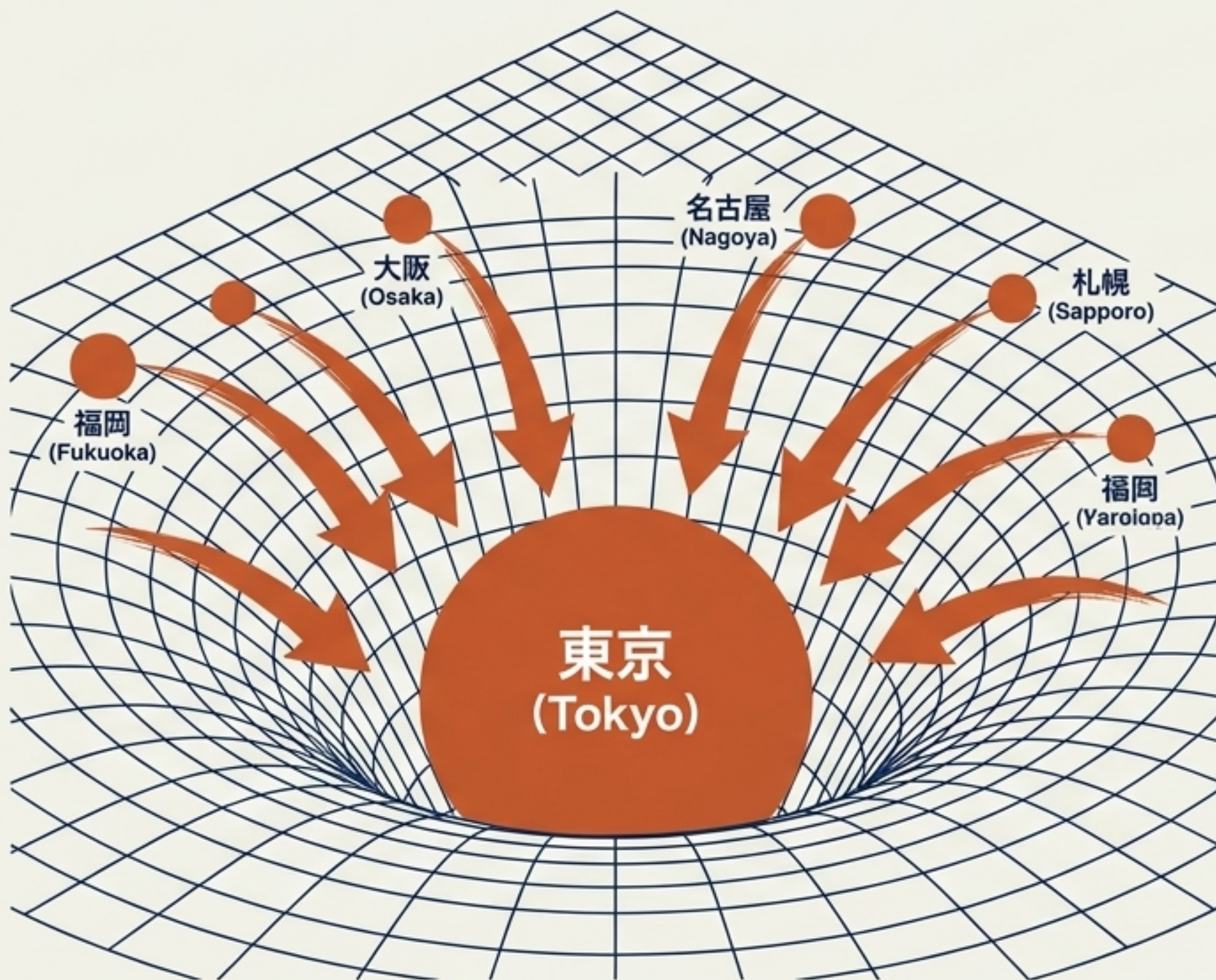


現代：データ

脱工業化社会。人と情報が、巨大な引力を持つ一点へと一極集中。



なぜ現代は「東京一極集中」なのか？（引力モデル）



$$\text{人口移動のポテンシャル: } V_i = \sum \frac{P_j}{d_{ij}}$$

- P (規模): 相手地域の**規模 (人口)** に比例する
- d (距離): 物理的・時間的な**距離**に**反比例**する

交通網とインターネットにより「**距離 (d)**」が極限まで縮んだ現代。東京という巨大な「**規模 (P)**」が持つ引力は、もはや他都市が抗えないレベルに達している。

パラダイムシフト：「分ける」地理から、「繋ぐ」地理へ

従来の視点 (Static Map)



境界：行政が引いた
「手続き上の線」



構造：排他的なトップダウンの
ブロック

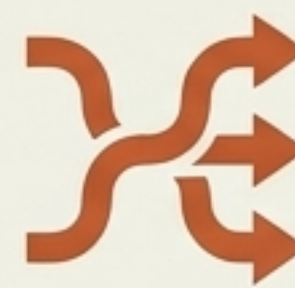


海：陸を「隔てる」壁



思考：ラベリングによる
思考停止（「〇〇地方だから」）

新しい視点 (Dynamic Topology)



境界：人やモノの
「移動（フロー）」の果て



構造：重なり合う
リアルなネットワーク

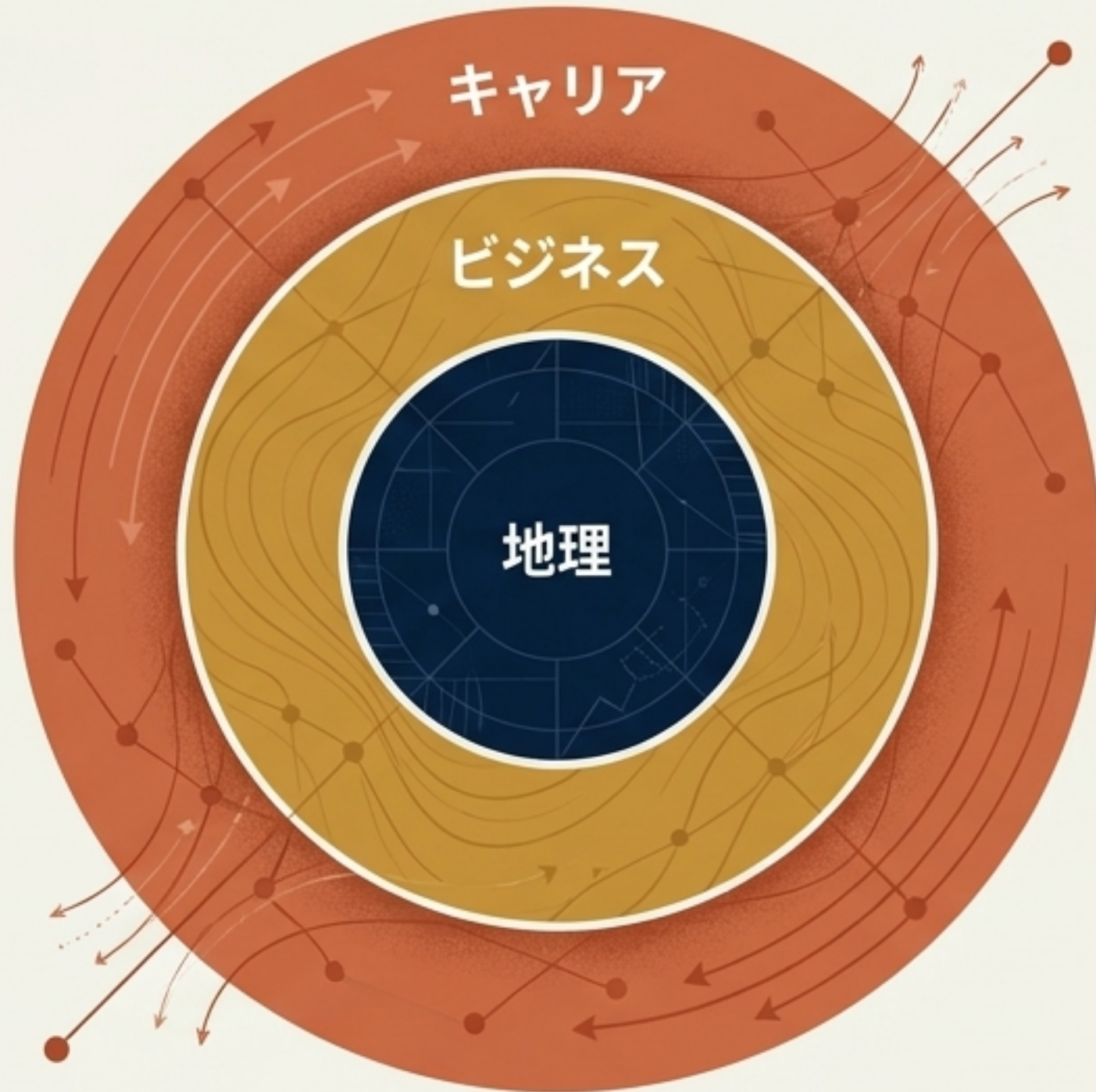


海：文化と経済を「繋ぐ」
ハイウェイ



思考：結節性（繋がり）を
を見抜く力

この視点は、ビジネスと人生の最強の武器になる



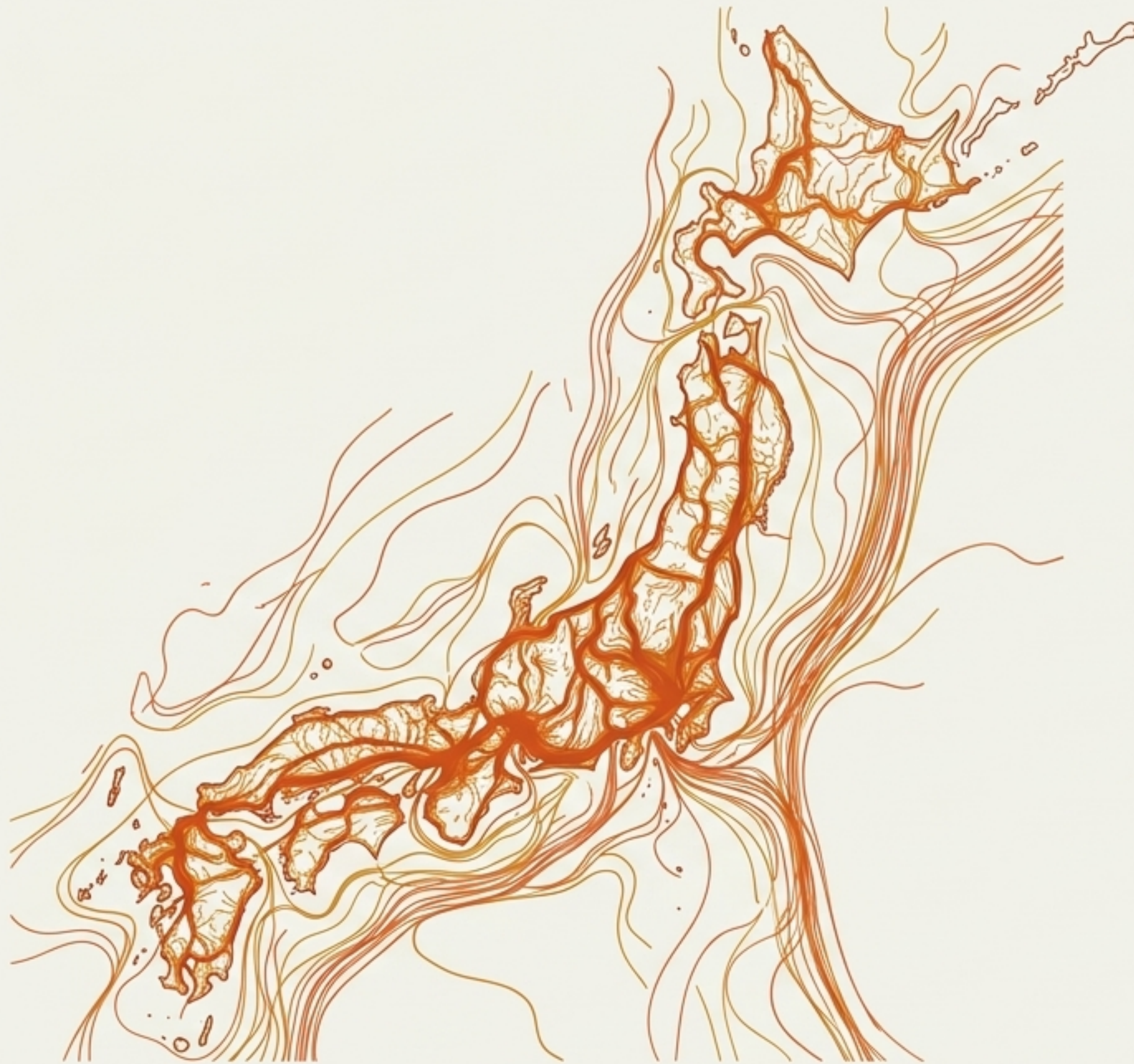
会社、業界、国籍…私たちが
が無意識に縛られている
「目に見える境界線」を
疑ってください。

Business

既存の市場セグメント（枠）を捨て、実際のユーザーの動き（結節地域）で市場を再定義する。

Career

業界の壁に囚われず、情報とスキルの「リアルな移動と結びつき」を見抜く。



地図を捨て、街に出よう。 移動した分、 見えてくる道がある。

人間は、行政が引いた線の上を
生きているわけではありません。
与えられた枠組みにとらわれず、
「あなただけの新しい地図」を頭の
中に描き出してください。

原著：『新しい日本地理』 重永瞬 著

Presented by: PHOENIX愛知 オンライン教室 (<https://phoenix-aichi.net/>)